

特集：当院における“がん診療”

～ 大阪府がん診療拠点病院としての役割を果たして参ります ～

がんは昭和 56 年以降日本人の死因の第 1 位を占め、今や男性の 2 人に 1 人、女性の 3 人に 1 人が生涯のうち一度は“がん”に罹患するといわれるようになりました。高齢化とともにその罹患率や死亡率は増加傾向にあります。特に大阪府のがん死亡率は全国ワースト 6 位（2011 年）と高く、その対策が喫緊となっています。当院は平成 23 年 4 月に“大阪府がん診療拠点病院”に指定されるとともに、国や大阪府が“がん対策基本法”や“大阪府がん対策推進条例”に基づいて推進する対策に積極的に協力し、その使命を果たすべく努力をして参りました。特に昨年 10 月には緩和ケア病棟を開設し、これまでの“内視鏡や CT, MRI などによる診断”、“手術や化学療法などの急性期治療”との 3 本柱が揃いました。今後とも“がん診療拠点病院”としての役割を果たせるようさらなる努力を致して参ります。本特集号では、当院におけます“がん対策”を紹介いたします。

がんの疫学・予防

がんの発生は細胞の遺伝子に傷がつくことから始まりますが、その原因としては、たばこ、ウイルスなどの感染症、アルコール、などが知られています。当院では敷地内禁煙を実施し、患者様やお見舞いの方への受動喫煙を防止しています。また、「禁煙外来」や肝炎ウイルスを治療する「肝疾患専門外来」を開設しています。一方、がん予防や治療などの総合的な対策に欠かすことのできない情報を、院内がん登録として大阪府や国に提供しています。

～禁煙外来のご案内～

平成 23 年 10 月 1 日より、禁煙外来を開院いたしました。たばこをやめたい方のために設けた専門外来です。簡単に概要説明させていただきます。禁煙外来を受けることができる方については当院ホームページ呼吸器内科を参照ください。禁煙外来といえば「ニコチンパッチ」、「バレニクリン」（運転する方は使用できません。）を使用した禁煙治療を連想されるかもしれませんが、しかしながら現在認知行動療法の重要性が指摘されております。それを踏まえまして当科では実践的カウンセリング（問題解決やスキル訓練）、生活指導といった精神面での禁煙サポートを積極的に行っております。思い立った今、当科受診のご予約下さいませ。



呼吸器内科医長
伴 裕雅

呼吸器内科ページ < 禁煙外来：毎週火曜・金曜日 >
<http://www.tachibana-med.or.jp/medical/medicine/kokyukinaika.html>

～肝疾患専門外来のご案内～

毎週木曜日の午後、肝疾患専門外来を行っております。肝機能障害、脂肪肝、B 型・C 型肝炎、肝硬変、肝がん等でお困りの方がおられましたらお気軽にご紹介いただきましたら幸いです。



内科主任部長
数さこ 恒夫

当専門外来では腹部超音波検査、CT、MRI 等を用い迅速で、正確な診断を心がけております。

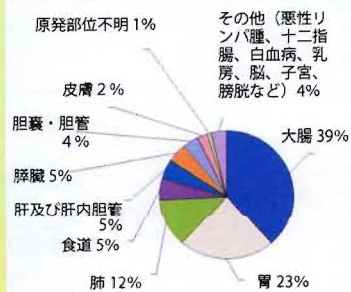
治療は、慢性肝炎に対する抗ウイルス療法の導入、肝がんに対する外科的手術他、局所治療としてラジオ波焼灼療法（RFA）、イタール注入療法（PEIT）、肝動脈塞栓療法（TACE）等積極的に実施しております。

*当院は大阪府肝炎専門医療機関の指定病院です。

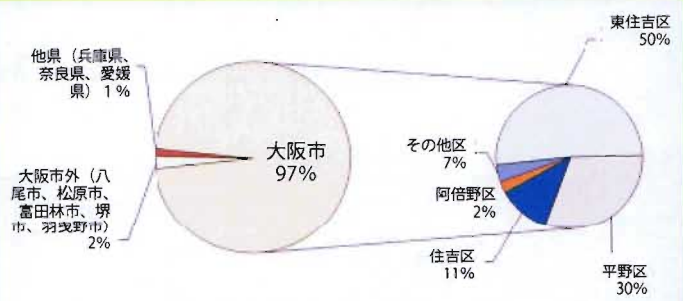
～当院では、正確な院内がん登録に務め、国や府のがん対策に協力しています～

院内がん登録とは、病院で診断および治療を行った全てのがんについて様々な診療情報を収集し管理する仕組みです。当院では、2011 年 4 月に大阪府がん診療拠点病院に指定されると同時に専従職員（国立がん研究センター院内がん登録実務初級者研修修了）を配置し、厚生労働省指定『院内がん登録標準登録様式』に基づいた院内がん登録に取り組んでおります。また、収集したデータは大阪府がん登録事業へと提出しております。

右のグラフは、2013 年（1 月～12 月）に登録された 528 例の集計の一部です。当院で治療される大半の患者さんは東住吉区と平野区にお住まいで、疾患としては、大腸や胃、肺のがんが多いことがわかります。（詳しくは当院 HP をご覧下さい。）



【原発部位（上皮内癌含む）】



【居住地区】

～ 安全確実な外科治療を目指して ～

当院外科では、身体に優しい腹腔鏡下手術を推進しています。また、肝転移を伴った高度進行大腸癌や、腸閉塞や穿孔などを合併した緊急を要する患者様にも積極的な外科治療を行っています。

2009年に導入した腹腔鏡下大腸切除術は、本年6月末時点で200例を超えました。年々腹腔鏡の比率が増加する傾向にあります(図1)。最近ではヘルニア手術、消化管穿孔手術などにも腹腔鏡を導入しています。

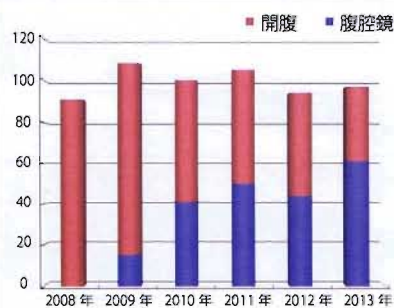


図1 当院における大腸癌切除症例数

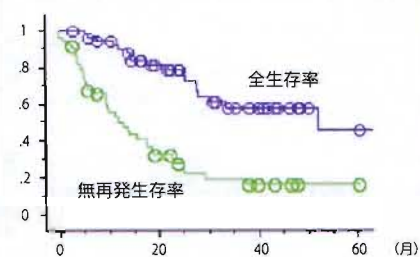


図2 当院における大腸癌肝転移に対する肝切除後の生存率

一方、肝転移を合併した進行大腸癌に対しても積極的な肝切除術を行っています。図2は昨年のJDDW(横浜)で発表した当院の転移性肝癌切除52例(同時性20例、異時性22例、再発10例)の肝切除後成績です。再発後でも化学療法を併用することにより比較的良好な予後が得られています。



「大腸がんの最新治療」
(主婦の友社)

福長先生の著書です。
当院売店でも取り扱っております。

外科部長・顧問医の紹介



外科部長
清田 誠志

胃癌・大腸癌・肝胆膵癌などの悪性疾患や、胆石などの良性疾患に対する外科治療を行っています。消化器癌に対する化学療法や腹部救急疾患に対する緊急手術も行っています。

<外来：水曜午前>

外科専門医、消化器外科専門医
(専門分野) 消化器外科、肝胆膵外科



外科部長
金沢 源一

胃や大腸の消化管悪性疾患を中心に外科治療を行なっています。大腸癌に対する腹腔鏡下手術も導入から5年を経過し順調に症例を重ねています。

<外来：土曜午前>

外科専門医、救急専門医
(専門分野) 消化器外科、内視鏡外科



外科顧問
(がん研有明病院副部長)
福長 洋介

東住吉森本病院での内視鏡外科導入時からお手伝いさせていただいております。現在も月1-2回のペースで手術の応援に来ています。様々なご相談にも応じますので、当院スタッフにお声をかけて下さい。

外科専門医、消化器外科専門医、
内視鏡外科技術認定医
(専門分野) 大腸癌の内視鏡手術

～ 安全・安心な外来化学療法を目指して ～

外来治療センターの紹介



外来通院をしていただきながら、抗がん化学療法やリウマチなどに対する治療を行う施設です。専任看護師が常駐し、安全確実な治療を行うとともに、患者様の様々な相談にも応じるように努めています。治療にかかる時間は1～3時間と患者様によってまちまちですが、その間リラックスして過ごしていただけるように配慮致しております。抗癌化学療法は近年非常に進歩した領域のひとつですが、その分複雑でリスクも高くなっています。当院では、化学療法加算1を取得し、化学療法委員会でも厳密にレジメン管理を行うなど、安心安全な化学療法に努めております。

～ 早期診断と低侵襲治療への取り組み ～

内視鏡部の紹介

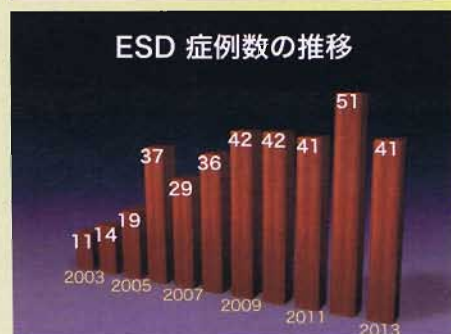
早期癌の段階では、一般的に症状を認めないことから、当院では「癌の早期診断には苦痛のない内視鏡検査が不可欠」と考え、他院に先駆けて鎮静下内視鏡（無痛内視鏡）や、経鼻内視鏡を取り入れてきました。検査数の増加に伴って、早期癌症例数も以前に比較して、徐々に増加傾向となっています。

そして早期診断に引き続き行われる治療法として、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を初期より導入し、10年余りで350例を超える症例数となりました。最初の3年間は症例数の伸び悩みや、不慣れな手技から、思うような成果をあげることができませんでしたが、その後の処置具・高周波装置の改良や手技の向上もあり、近年では粘膜内癌であれば5cmを超えるような巨大病変でも一括切除に至るまでとなっております。

なお、入院スケジュールとしては、術後2日目から食事を開始し、術後4日目に退院が可能です。今後も安全で低侵襲な治療を提供していきたいと思っております。



副院長・内視鏡部長
仲川 浩一郎



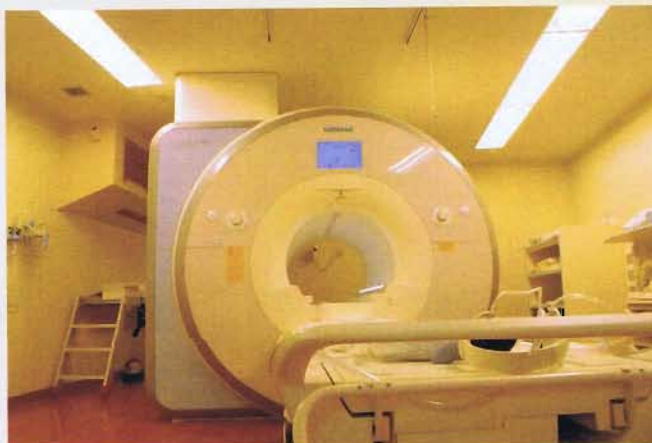
放射線科の紹介

当科では最新のMRIやCTを用いて、がんの早期診断や正確な進行度診断に努めております。また、肝臓がんに対するカテーテル治療も肝臓内科と連携して積極的に行っております。

内科や外科などの専門科と、常に開かれたカンファレンスを実施しながら、個々の患者様にとって適切な治療方針が示されるよう努めております。

一方、放射線治療が必要な患者様には、市大病院放射線科などと連携して治療を行っております。

当院放射線科へのご紹介は地域医療連携センターまでお願い致します。（カテーテル治療の主治医は、原則的に内科が担当させていただきます。）



放射線科部長
藤本 圭志



緩和ケア病棟の紹介

昨年10月に14床の緩和ケア病棟を開設致しました。あらゆる臓器のがん患者様を対象とし、当院で急性期の治療を終えられた方に限定せず、他院からの紹介患者様も受け入れております。開設から10ヶ月が経過し、徐々に院内外の先生方に周知され、特に他院から紹介いただく患者様が増えてきました。

入院を必要としない患者様には、在宅緩和ケアを担っていただく先生や訪問看護師様と連携しながら、当院緩和ケア外来でもフォローさせていただいております。また、がん緊急や急性期医療が必要となるような場合は、当院救急総合診療センターや各専門科で対応させていただいております。当院の機能をフルに活かして地域の緩和ケアセンターとしての役割も担えるように努力して参ります。

患者様のご紹介は地域医療連携センターを通して、緩和ケア外来までお願い致します。

緩和ケア外来：水曜午後

(担当：田中 院長、江口 緩和ケア認定看護師)

緩和ケア病棟では、患者様やご家族に心地よく過ごしていただくために、様々な行事を企画しております。

(写真は本年7月の七夕の会の様子です。様々なゲームやバイオリン演奏を楽しんでいただきました。)

<病診連携の会>

- ・第4回大阪市南部地区緩和ケア連携カンファレンス (8月21日(木) 17:30～ 当院6階講堂)
- ・第7回東住吉がん診療連携懇話会 (10月11日(土) 17:00～ 天王寺都ホテル)

<患者さん対象の講演会>

- ・知って得するよもやま塾：「もしもあなたやご家族ががんといわれたら」講師：田中 宏 院長 (9月12日(金) 14:00～当院6階講堂)



編集後記

広報室 M

出勤時に気になる猫ちゃんがいるんですよ。ほぼ毎朝、木の切り株の上に座ってじっとしている子なんです。和んでいるのか??それとも天敵の監視役なのか??近寄っても機嫌よく写真を撮らせてくれるので少なくとも私は天敵グループではなさそうです。



東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話 0120-65-0343 FAX 0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 辻口 幸之助